

コミュニティバス 「ふれあいバス」の現状と課題

平成30年9月3日

1. コミュニティバス「ふれあいバス」の概況

猪名川町における公共交通に関連した主な取り組み

- コミュニティバス「ふれあいバス」は、町内の交通不便地の解消と、高齢者や障がい者、学生などで車を運転しない方の移動手段の確保を目的として、平成12年に運行を開始。
- 平成24年に策定した「ふれあいバス見直し計画」により、平成25年において、ふれあいバスの運行ルート・ダイヤの見直しを実施。
- 川西病院バスは、実証実験運行を平成22年に実施したが、少ない利用者数、低い収支率の結果により、持続可能性の担保が出来ないことから、本格運行に向けて運行効率化を図る調査・検討を進める結果に。

平成12年：猪名川町コミュニティバス「ふれあいバス」運行開始

平成22年：猪名川町地域公共交通会議設置

平成22年：日生中央駅と市立川西病院を結ぶ
「川西病院バス」実証実験運行



平成24年：ふれあいバス見直し計画の策定

平成25年：ふれあいバス見直し計画に基づいた運行ルート・ダイヤの見直し実施

○主な見直し概要○

- ・ 利用者の多い午前便の充実と合わせて、主な利用目的である買い物と通院の移動を支援するルートを設定
- ・ 尾花橋以南のルートとダイヤを統一。月～土曜日まで毎日同じ時刻に運行
- ・ 利用者ニーズの高い病院や買い物を想定し、以前より少し早い時間に1便目として増便
- ・ 各コース1日5便運行
- ・ 槻並地区に「フリー乗降区間」を導入

平成26年・平成28年：ふれあいバス各1台更新

コミュニティバス「ふれあいバス」の導入の目的と運行概要

■ 導入目的

- 高齢者や障がい者、学生などで車を運転しない方への移動手段確保
- 交通空白地の解消（町内全域を走行）
- 公共施設へのアクセス向上、利用活性化

■ 運行概要（1/2）

- 運行開始
 - ・ 平成12年4月1日～（平成13年11月22日より2台運行）
- 運賃
 - ・ 大人：200円、小人：100円（小学生以下）を上限に利用区間に応じて料金を設定（ブロック制：150～190円）
 - ・ 高齢者向け阪急バス全線フリー定期券「hanicaはんきゅうグランドパス65」、通学区間定期券「hanica阪急スクールパス」、交通系ICカード「PiTaPa」、「ICOCA」及び全国相互利用対象の交通系ICカード（Kitaca・PASMO・Suica・manaca・TOICA・はやかけん・nimoca・SUGOCA）も利用可能
- 運賃の割引
 - ・ 町内在住の70歳以上の方（「すこやかカード」の提示が必要）は無料
 - ・ 身体・知的・精神障害者の手帳所持者は無料
- 運行車両
 - ・ 小型路線バス2台
（乗車定員29人（座席数11席））
 - ・ 車椅子利用可（1台）



INAGAWA

ふれあいバス
路線図



■ 運行概要 (2/2)

○ 路線

- 青コース、赤コース、黄コース、緑コースの合計4路線
- 赤コース、青コースは主に北部地域を運行
- 黄コース、緑コースは主に南部地域を運行

○ 運行日・運行便数

- 青コース・緑コース：
月・水・金曜日の週3日
- 赤コース・黄コース：
火・木・土曜日の週3日
- 各コース5便運行

● 日生中央バス停



● イオンモール猪名川バス停



【フリー乗降ってなに?】

フリー乗降とは、バス停以外の場所でも乗り降りすることが出来る制度です。フリー乗降ができる場所は、黄緑色の一部区間となっています。

【乗るとき】

- 必ず運行方向の乗降でバスを降りてください。
- 乗降止から降りず安全な場所まで降りてください。
- 乗降止の無いフリー乗降区間、乗降止が設置と表示した場所では降りることができません。
- バスが来たらずいすを手を挙げて乗降止に車寄せをお願いします。

【降りるとき】

- 降りたい場所から50m手前で早めに乗降ボタンを押し、乗降止に車寄せをお願いします。乗降止のないフリー乗降区間では降りることができません。
- 降りた後安全な場所まで降りてください。
- 降りた後安全な場所まで降りてください。

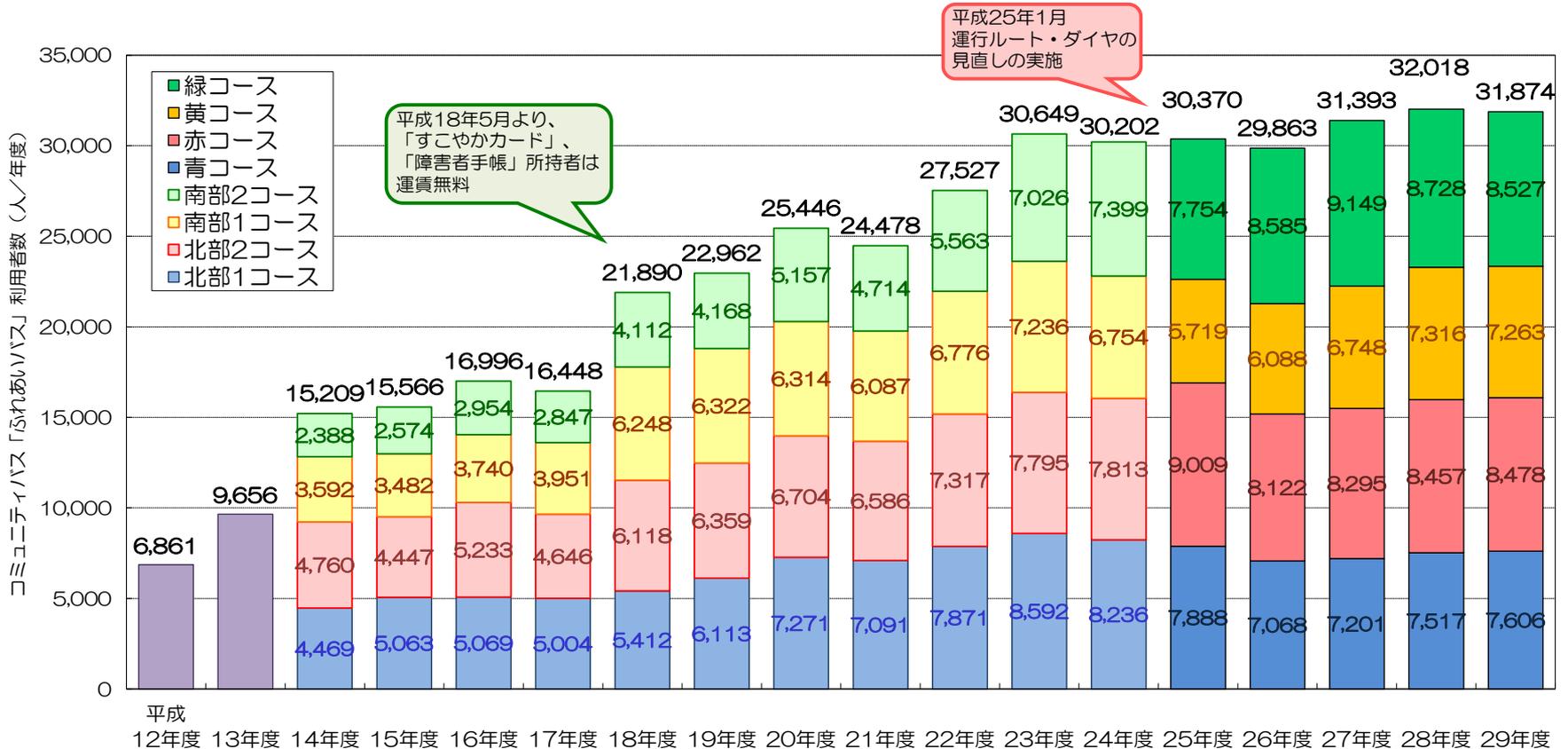
紫台周辺図



スマートフォンから時刻表が確認できます!

コミュニティバス「ふれあいバス」利用者数の推移

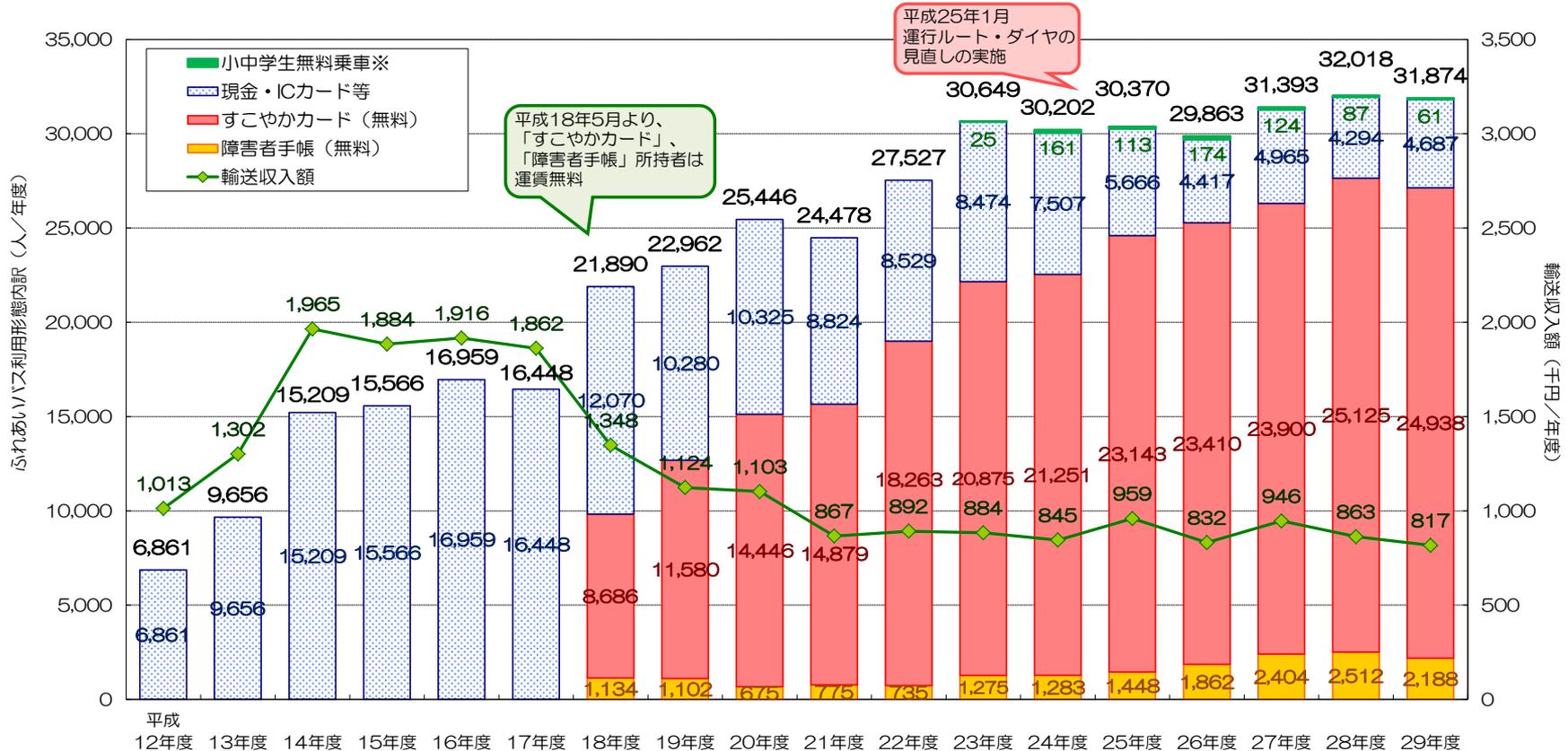
- コミュニティバス「ふれあいバス」の利用者は、平成29年度で31,874人であり、平成25年に運行ルート・ダイヤの見直しを実施し、微増傾向にある。
- コース別に見ると、北部地域を運行する青コース（旧：北部1コース）と赤コース（旧：北部2コース）の利用者数は、南部地域を運行する黄コース（旧：南部1コース）と緑コース（旧：南部2コース）と比べ多い傾向にあったが、近年は同程度にある。



※コース別利用者数データは、平成14年度以降のみ
出典：猪名川町資料

コミュニティバス「ふれあいバス」 運送収入額の推移

- ふれあいバスの利用者は増加傾向にあるが、高齢者（町内在住の70歳以上）と障がい者の運賃無料化により、運送収入額はピーク時の約4割に低下している。
- 現金・ICカード等による有料の利用者は、全利用者の約2割以下である。

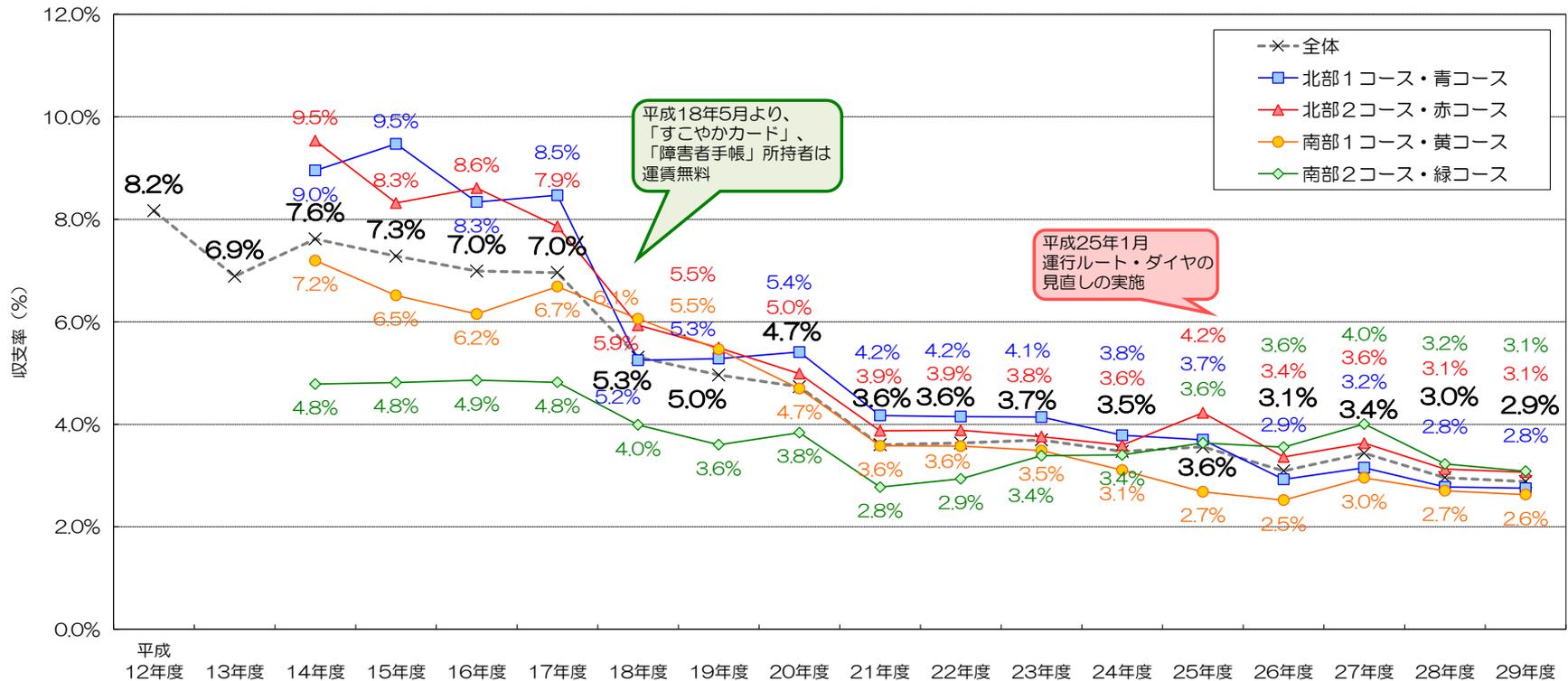


出典：猪名川町資料

※ 小中学生無料乗車：夏休み期間中に小中学生がふれあいバスを無料で乗車できる「小中学生無料乗車キャンペーン」を実施。

コミュニティバス「ふれあいバス」収支率の推移

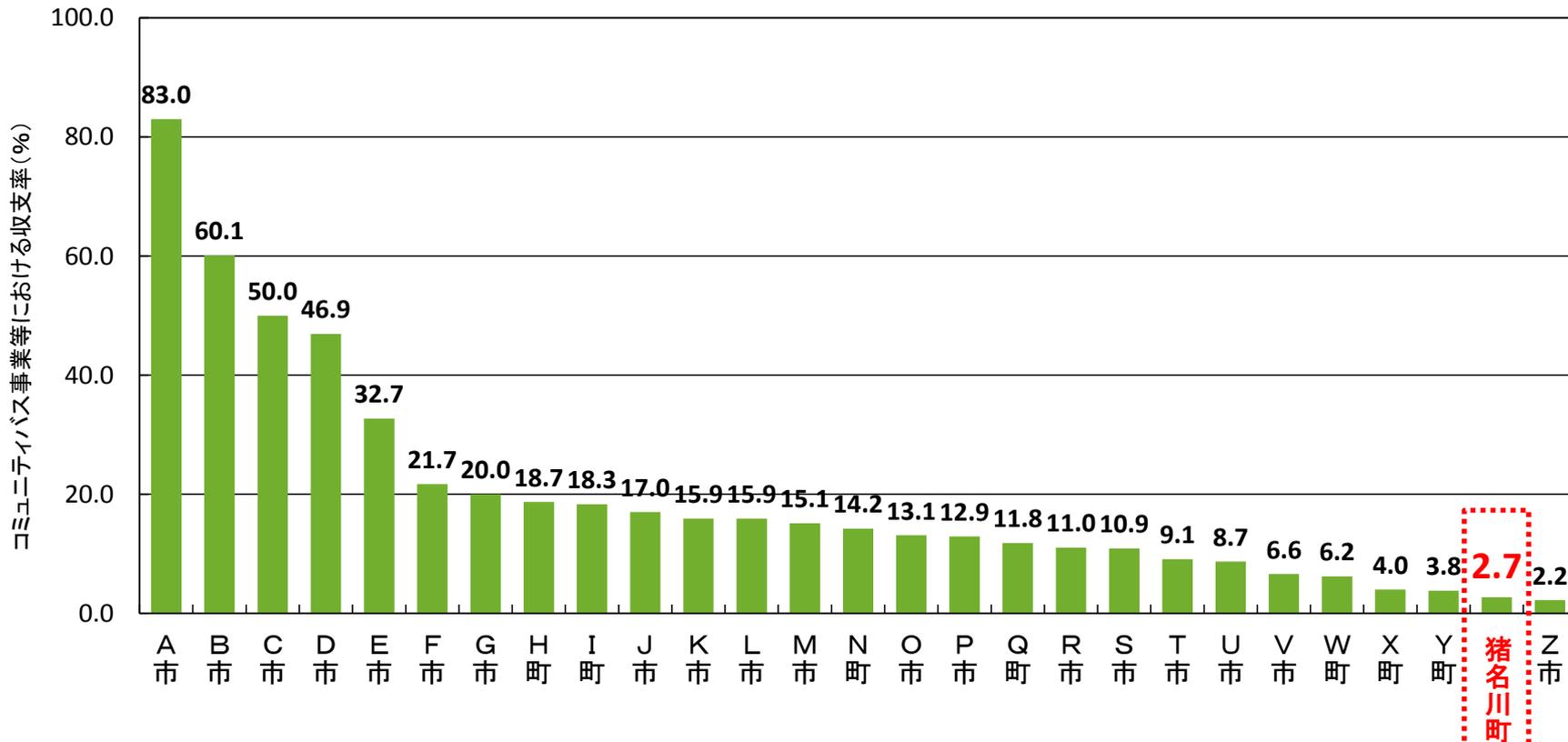
- 収支率は、年々減少傾向にあり、平成29年度で2.9%となっている。
- コース別に見ると、近年では大きな差は見受けられない。



※収支率について
 ・各年度の運行経費に対する収入額の割合（収支率＝収入額／運行経費）
 ※コース別収支率について
 ・データは、平成14年度以降のみ
 ・コース別収入額は、各年度のコース別利用者割合から収入額を算定
 ・コース別運行経費は、各年度の全体運行経費の1/4と想定
 出典：猪名川町資料

県内他市町との比較（収支率）

○ 平成28年度におけるふれあいバスの収支率は、県内27市町のコミュニティバス事業中、25番目であり、収支率が低い状況にある。



※兵庫県資料をもとに作成

2. 公共交通等の概況

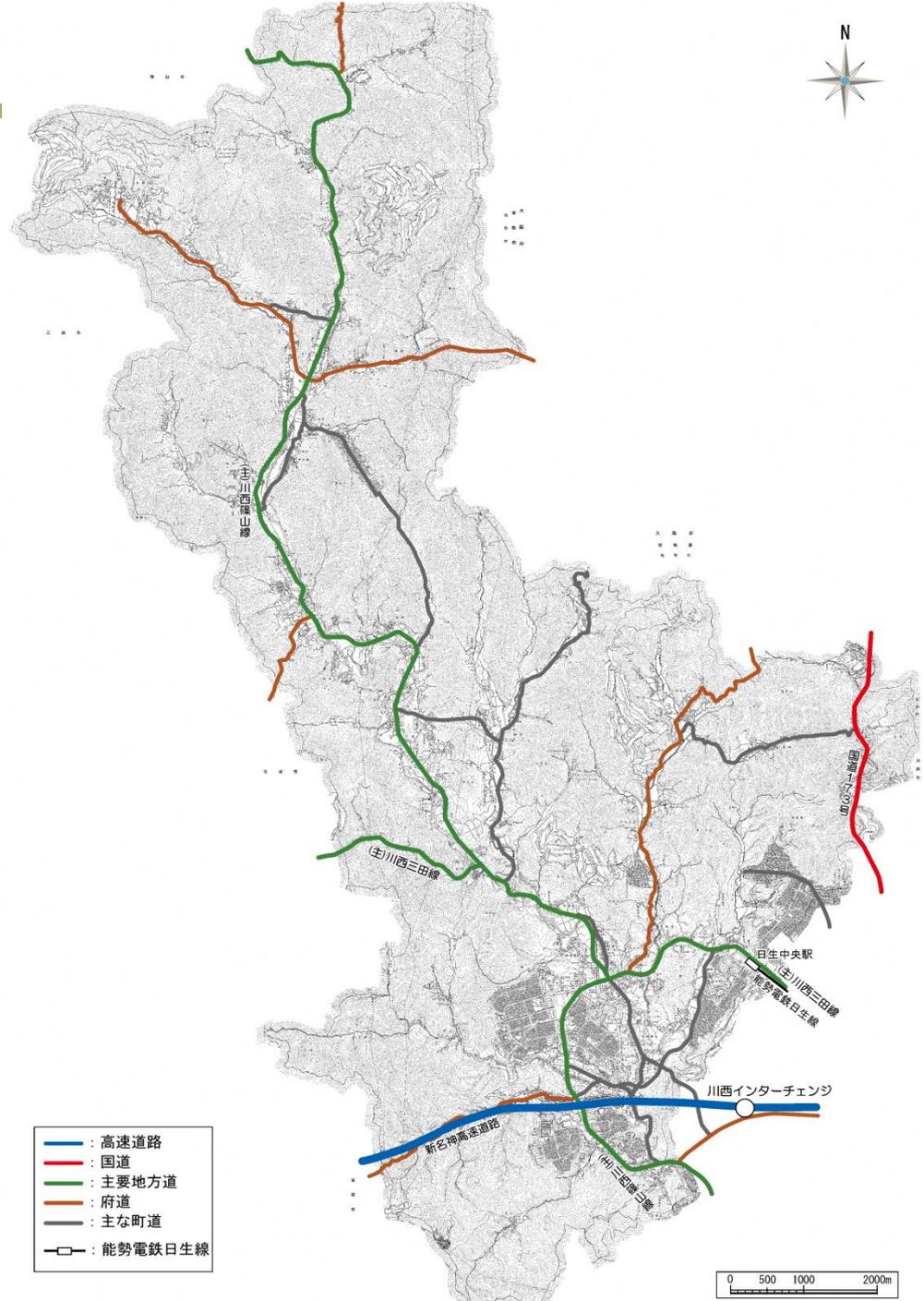
道路ネットワーク

- 南部地域は（主）川西篠山線及び（主）川西三田線を軸にネットワークが充実しているが、北部地域では（主）川西篠山線の南北軸のみである。
- 町南部を新名神高速道路が通過している。

●新名神高速道路（川西インターチェンジ）

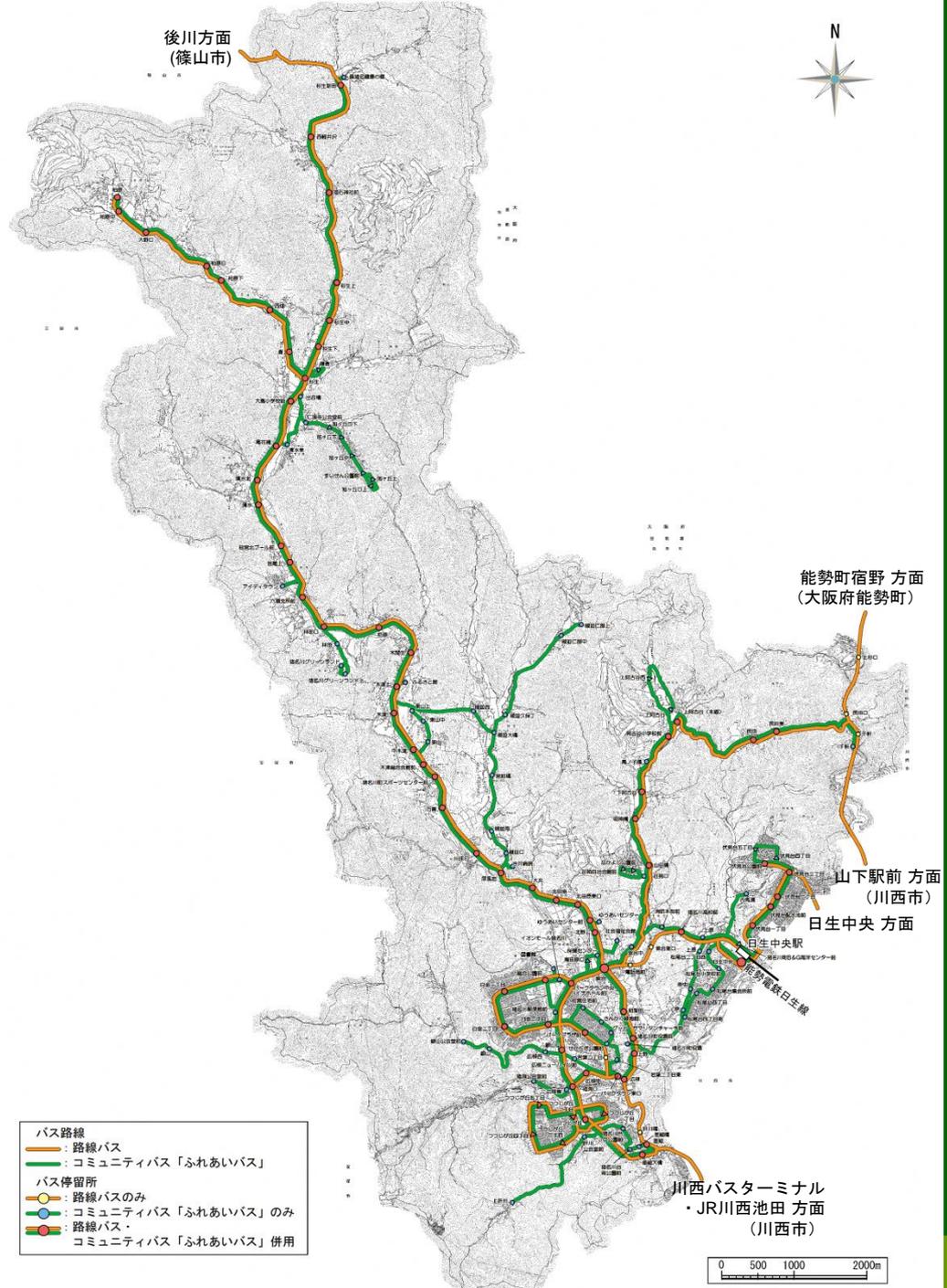


●（主）川西篠山線



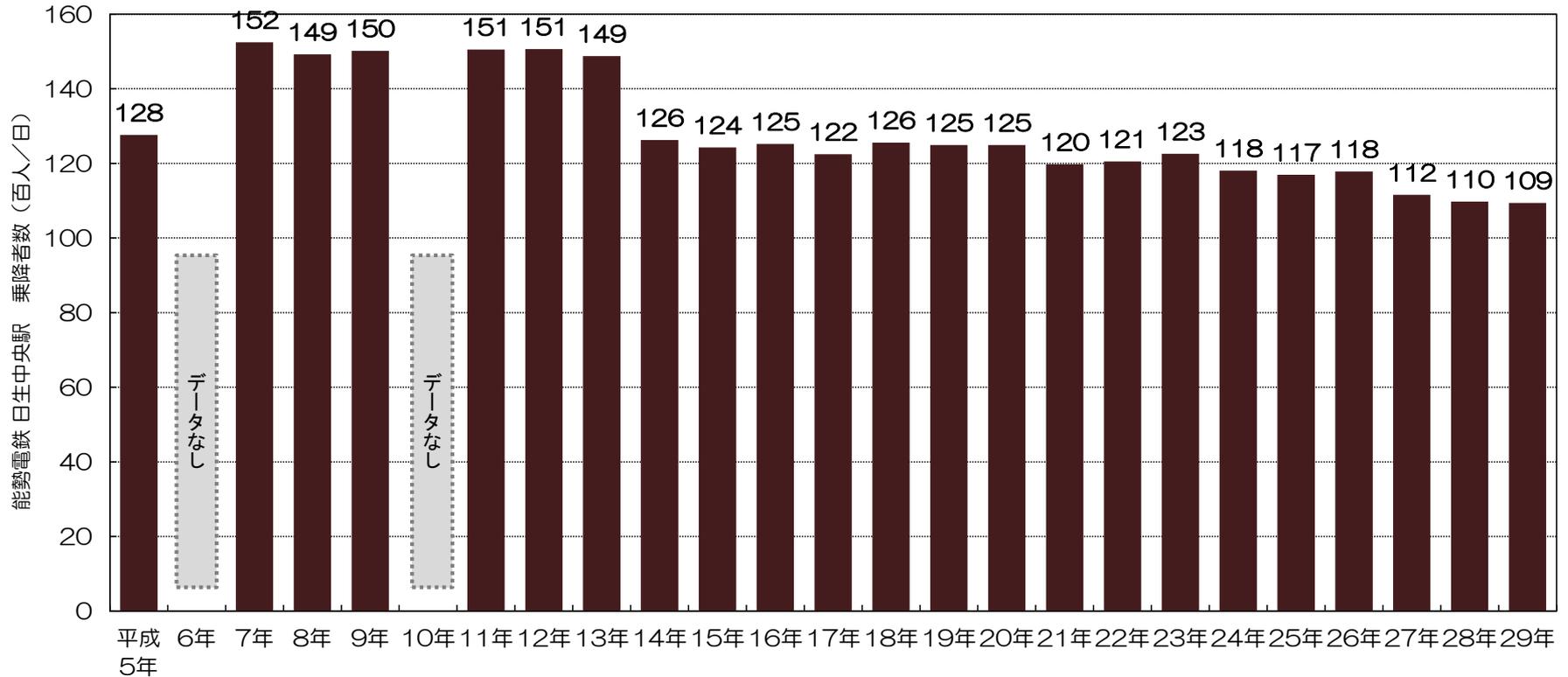
鉄道・バスネットワーク

- 能勢電鉄は日生中央駅を起点に川西能勢口・大阪梅田方面へ運行している。
- 路線バスは、町北部地域を運行する路線は全て紫合を経て日生中央発着の系統であり、南部に位置するパークタウンやつつじが丘では、日生中央と川西バスターミナル方面を結ぶ系統が運行している。



■ 鉄道乗降者数の推移

○ 日生中央駅の乗降者数は、平成7年の1.52万人/日をピークに減少し、近年は微減傾向にある。



出典：猪名川町資料

鉄道事業者による主な取組み

■鉄道事業者による主な取組み

- 朝夕のラッシュ時は日生中央と大阪梅田を結ぶ直通特急（日生エクスプレス）が運行している。
- 平成30年7月のダイヤ改正により、朝の通勤・通学時間帯の利便性向上を図るために、直通特急（日生エクスプレス）の発車時刻を繰り上げている。

● 直通特急（日生エクスプレス）



● 直通特急（日生エクスプレス）の発車時刻

ダイヤ改正前		ダイヤ改正後	
日生中央発	梅田着	日生中央発	梅田着
6:40	7:21	6:31	7:12
6:55	7:39	6:47	7:31
7:11	7:56	7:03	7:48
7:28	8:13	7:19	8:04
7:44	8:28	7:35	8:20
8:00	8:44	7:52	8:36
8:17	9:00	8:10	8:52

出典：能勢電鉄株式会社 NEWS RELEASE（2018年5月22日）

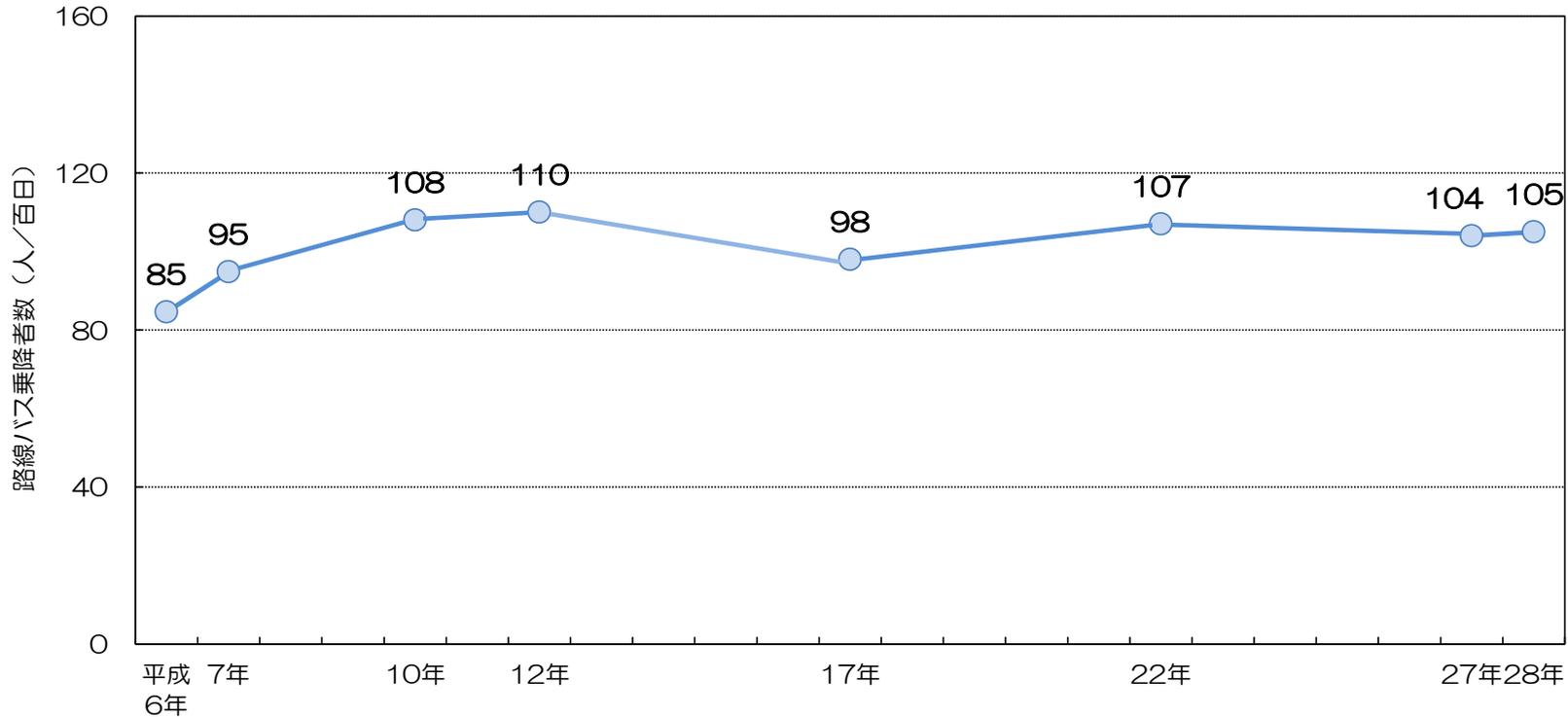
● ダイヤ改正の概要（平成30年7月7日実施）

- ・ 平日の平野発の上り始発列車を新設し、また、川西能勢口発下り始発列車を20分繰り上げ
- ・ 平日朝ラッシュ時間帯の特急列車の発車時刻を繰り上げ、利便性向上を図る
- ・ 平日朝ラッシュ時間帯（8時台）の妙見口～笹部間の列車本数の適正化を図るため、妙見口発の列車本数を増便
- ・ 阪急電鉄宝塚線の運行ダイヤに合わせて、土・日・祝日の19時台以降における運転間隔の見直し実施

出典：能勢電鉄株式会社 NEWS RELEASE（2018年5月22日）

■ 路線バス乗降者数の推移

- 猪名川町内における路線バス乗降者数は、平成28年で1.05万人/日であり、近年はほぼ横ばい傾向にある。



※猪名川町内の路線バスの乗降者数は、町内の全路線バス停留所における乗降者数の合計値である。
(コミュニティバス「ふれあいバス」の乗降者数は除く)

出典：阪急バス株式会社資料

■路線バスの運行状況

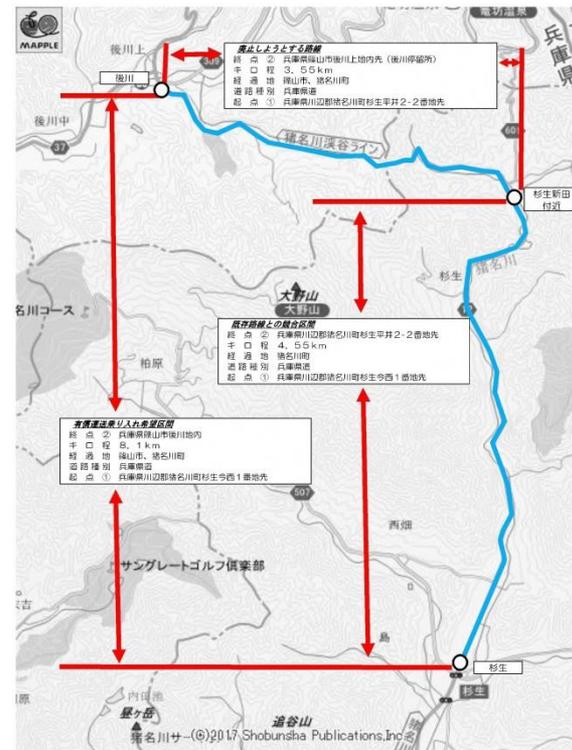
- 町内全体での路線バス乗降者数は、近年ほぼ横ばい傾向にあるが、北部地域を運行する杉生線（杉生系統）や西能勢線（阿古谷系統）は、利用者の減少により、減便されている。
- 杉生線（杉生系統）のうち、日生中央と篠山市後川を結ぶ系統では、杉生新田～後川間の廃止が予定されている。廃止に伴い、篠山市では杉生～後川間に市町村運営有償運送（交通空白輸送）の運行を予定している。

●杉生線及び西能勢線の運行便数の推移（往復便数）

		平成22年	平成30年	増減
杉生線 (日生中央～ 杉生方面)	平日	35 便/日	29 便/日	▲6 便/日
	土曜日	31 便/日	25 便/日	▲6 便/日
	日祝日			
西能勢線 (日生中央～ 阿古谷方面)	平日	6 便/日	4 便/日	▲2 便/日
	土曜日	6 便/日	運休	▲6 便/日
	日祝日	運休		

※平成30年の運行便数は、平成30年8月末時点

●廃止区間及び市町村運営有償運送の運行区間



【地図使用承認©昭文社第 596106 号】

●柏原バス停



●民田バス停



■路線バス事業者の主な取組み

- 阪急バスでは、バスロケーションサービスを平成28年3月から開始し、平成30年3月から猪名川町を含む全路線でのサービスの利用が可能になっている（※猪名川町は平成29年3月サービス開始）。
- スマートフォン、パソコンなどの各種端末で、リアルタイムな運行状況および乗車停留所や降車停留所までの到着予想時刻が確認できる。
- また、車内の案内表示モニターを活用し、駅到着予定時刻や乗継可能な鉄道発車時刻の案内を行っている。

●バスロケーションシステムによるバス接近情報提供

The screenshot shows a mobile application interface for bus location services. At the top, there's a QR code and a search bar. Below is a map showing the bus route. The main section displays arrival information for 'Himeji Central Station' (日生中央行き) with a green 'まもなく到着' (Arriving soon) button. A detailed view shows the bus is 1 minute away from the station.

●バス車内での駅到着予定時刻や乗継可能な鉄道発車時刻の案内の状況

The photograph shows the interior of a bus with two digital displays. The left display shows a fare table for 'Himeji Gakko-mae' (猪名川高校前) with fares ranging from 200 to 510 yen. The right display shows a 'Himeji Central Station' (日生中央駅) timetable for the 'Himeji Line' (日生線) towards 'Kawanishi No. 1' (川西能勢口方面). It lists arrival times for 'Himeji' (9:53), 'Kawanishi No. 1' (10:09), 'Yama' (10:16), and 'Kawanishi No. 2' (10:29). A sign below the displays says '乗車中でもご購入いただけます' (You can purchase tickets even while on board).

出典：阪急バス株式会社HP

■路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」の料金

○ 北部地域をはじめとした多くの地域において、路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」が重複して運行し、また料金体系が異なるため、目的地までの運賃に格差が生じている。

●町内各地から日生中央やパークタウン中央（イオンモール猪名川）までの料金と所要時間

目的地	出発地 バス停名称	ふれあい バス	路線バス	路線バスとの差分	ふれあいバス運行コース			
					青	赤	黄	緑
日生中央	柏原	190円 (99分)	670円 (40分)	▲480円 (+59分)		○		
	杉生新田	190円 (100分)	690円 (40分)	▲500円 (+60分)	○			
	杉生	180円 (91分)	550円 (31分)	▲370円 (+60分)	○	○		
	六瀬支所前	170円 (68分)	430円 (22分)	▲260円 (+46分)	○	○		
	万善	160円 (52分)	280円 (16分)	▲120円 (+36分)	○	○		
	民田	160円 (35分)	260円 (20分)	▲100円 (+15分)			○	
	阿古谷小学校前	160円 (19分)	260円 (15分)	▲100円 (+4分)			○	
	伏見池公園前	150円 (10分)	160円 (7分)	▲10円 (+3分)				○
パーク タウン 中央 ・イオン モール 猪名川 ^{※1}	柏原	190円 (71分)	730円 (43分) ^{※2}	▲540円 (+28分)		○		
	杉生新田	190円 (70分)	770円 (43分) ^{※2}	▲580円 (+27分)	○			
	杉生	180円 (62分)	610円 (34分) ^{※2}	▲430円 (+28分)	○	○		
	六瀬支所前	170円 (39分)	500円 (27分) ^{※2}	▲330円 (+12分)	○	○		
	万善	160円 (23分)	350円 (19分) ^{※2}	▲190円 (+4分)	○	○		
	民田	170円 (55分)	410円 (27分) ^{※3}	▲240円 (+28分)			○	
	阿古谷小学校前	170円 (47分)	410円 (22分) ^{※3}	▲240円 (+25分)			○	
	伏見池公園前	170円 (41分)	260円 (18分)	▲90円 (+23分)				○
つつじが丘五丁目	150円 (20分)	160円 (10分)	▲10円 (+10分)			○		

※ : 路線バスの運賃がふれあいバスの運賃よりも2倍以上の差分を示す。

※1：ふれあいバスはイオンモール猪名川バス停、路線バスはパークタウン中央バス停が対象

※2：紫合バス停で乗換え（乗換え時間9分含む）

※3：電話局前バス停で乗換え（乗換え時間8分含む）

※所要時間は最も短い時間を示す

出典：猪名川町ふれあいバス時刻表、阪急バス株式会社HP

路線バス

■ 路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」の料金

●バス車内の案内表示モニターによる運賃表示の様子

【ふれあいバス（赤コース）：杉生発⇒日生中央行】



杉生から
日生中央まで
の運賃

【路線バス（杉生線）：柏原発⇒杉生経由⇒日生中央行】

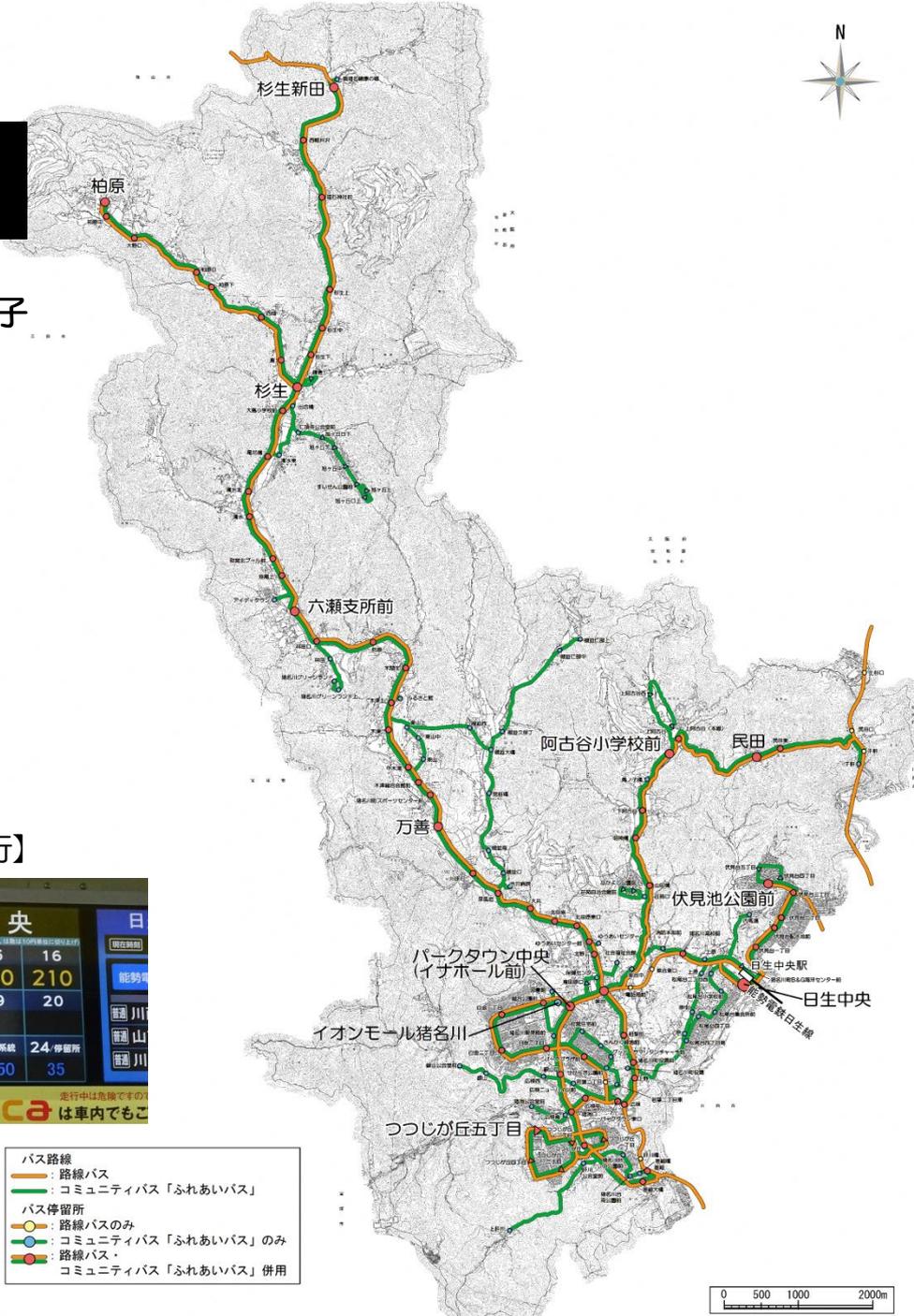


交互に表示

杉生から
日生中央まで
の運賃



- バス路線
 - 路線バス
 - コミュニティバス「ふれあいバス」
- バス停留所
 - 路線バスのみ
 - コミュニティバス「ふれあいバス」のみ
 - 路線バス・コミュニティバス「ふれあいバス」併用



3. 猪名川町の概況

地勢・土地利用状況

- 猪名川町は、東西が最大約8km、南北は約18kmと南北に細長い形状である。
- 町の最北部には大野山(標高753m)を源流とする猪名川が町の中央を北から南へ流れ、その周辺に集落が形成されており、町の南部の丘陵地では民間による大規模住宅地開発が行われ、市街地を形成している。

●猪名川町の位置



●大野山
(大野アルプスランド)

●猪名川(屏風岩)

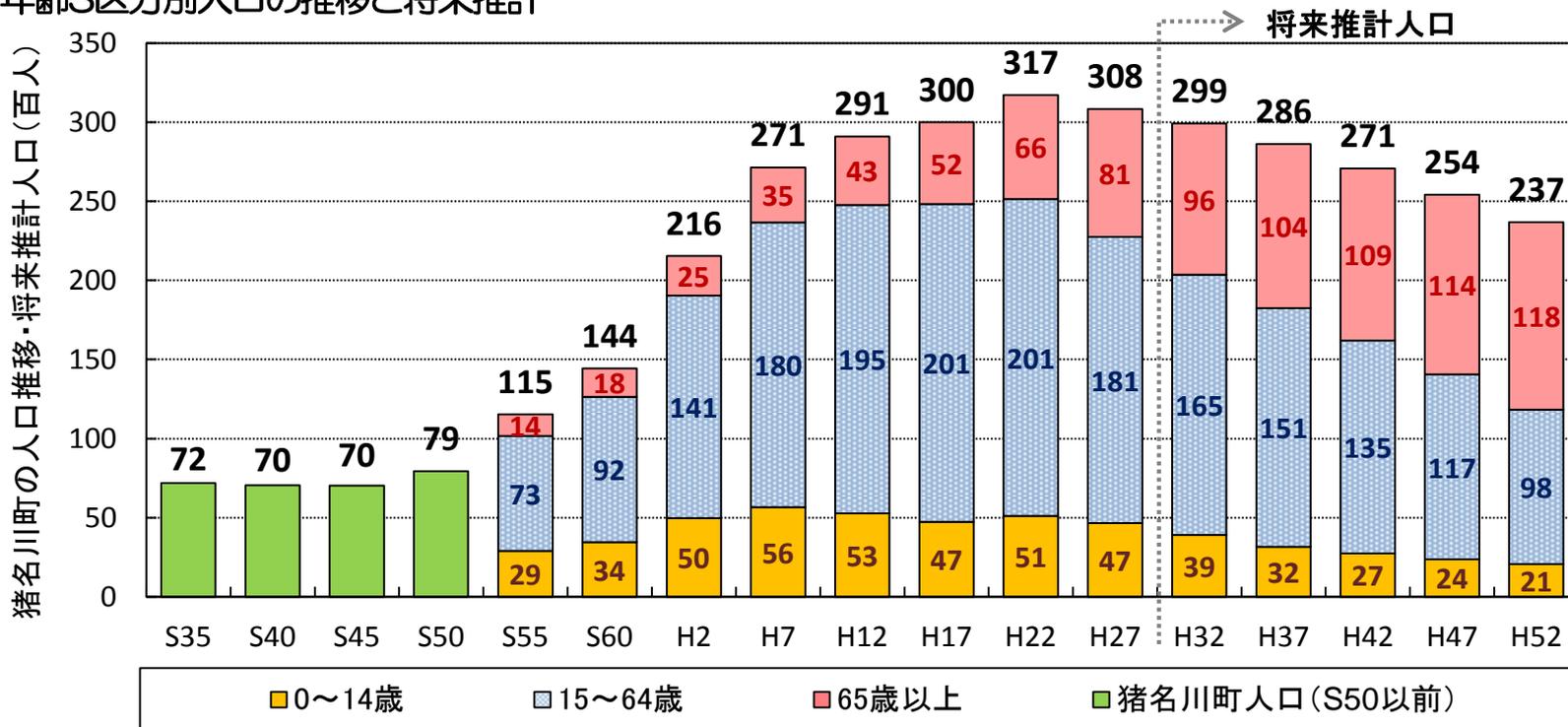


●大規模住宅地
(つつじが丘)

■人口の推移

- 昭和45年の7,032人から、昭和50年の阪急日生ニュータウンへの入居開始、その後の猪名川パークタウンやつつじが丘住宅地への入居などにより増加傾向が続いたが、平成22年頃をピークにやや減少傾向となり、平成27年には30,838人である。
- 今後も生産年齢人口の減少とともに、人口が減少するものと予測され、将来はさらに高齢化が進行するものと予測されている。

●年齢3区分別人口の推移と将来推計

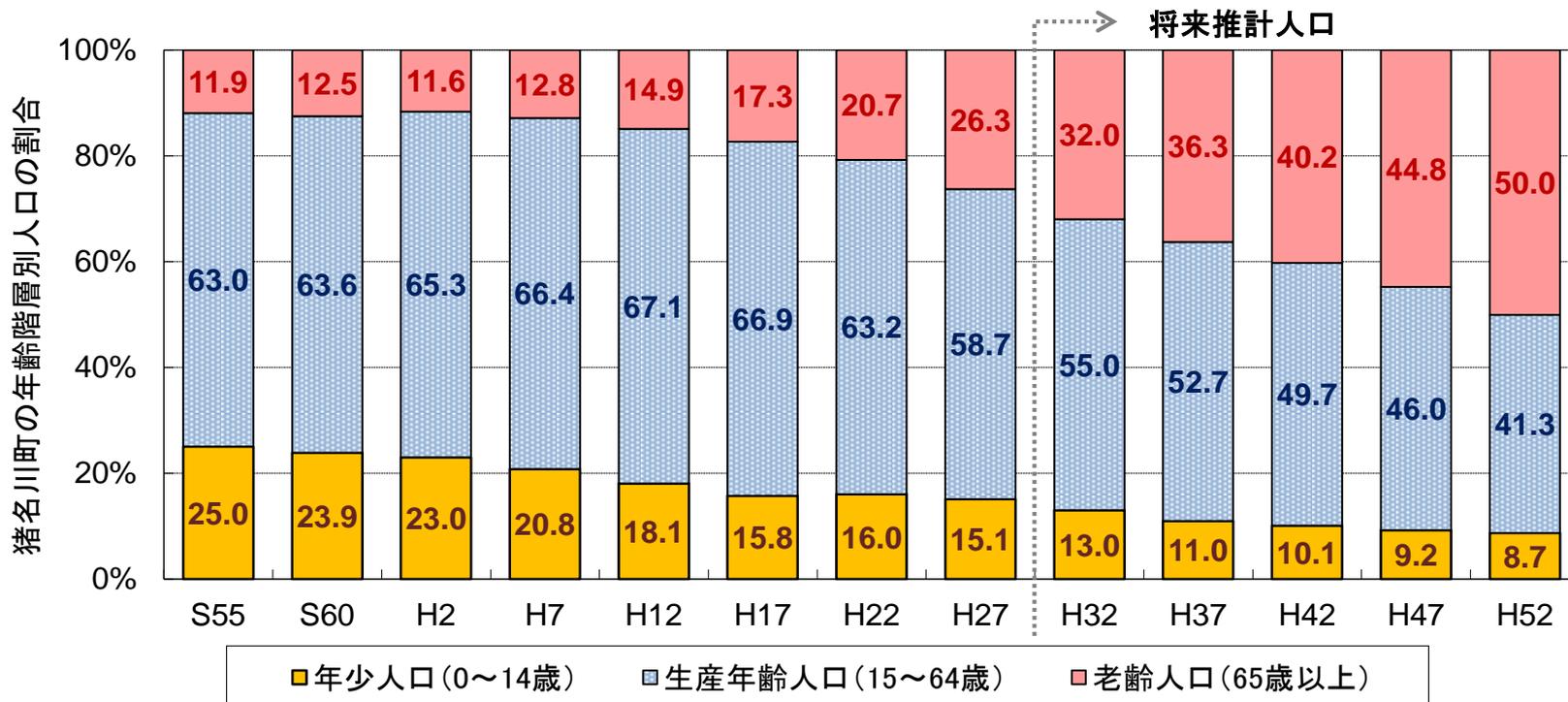


出典：国勢調査（昭和35年～平成27年）、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計結果（平成25年3月推計）（平成32年以降）

■ 年齢階層別人口の推移

- 高齢化率（65歳以上人口割合）は増加傾向にあり、平成27年時点で26.3%と、超高齢社会（高齢化率が21%以上）に突入している。
- また、年少人口（0～14歳人口割合）は減少傾向にあり、平成27年時点では15.1%である。今後も少子高齢化が進行するものと予測されている。

● 年齢階層別人口の推移と将来推計

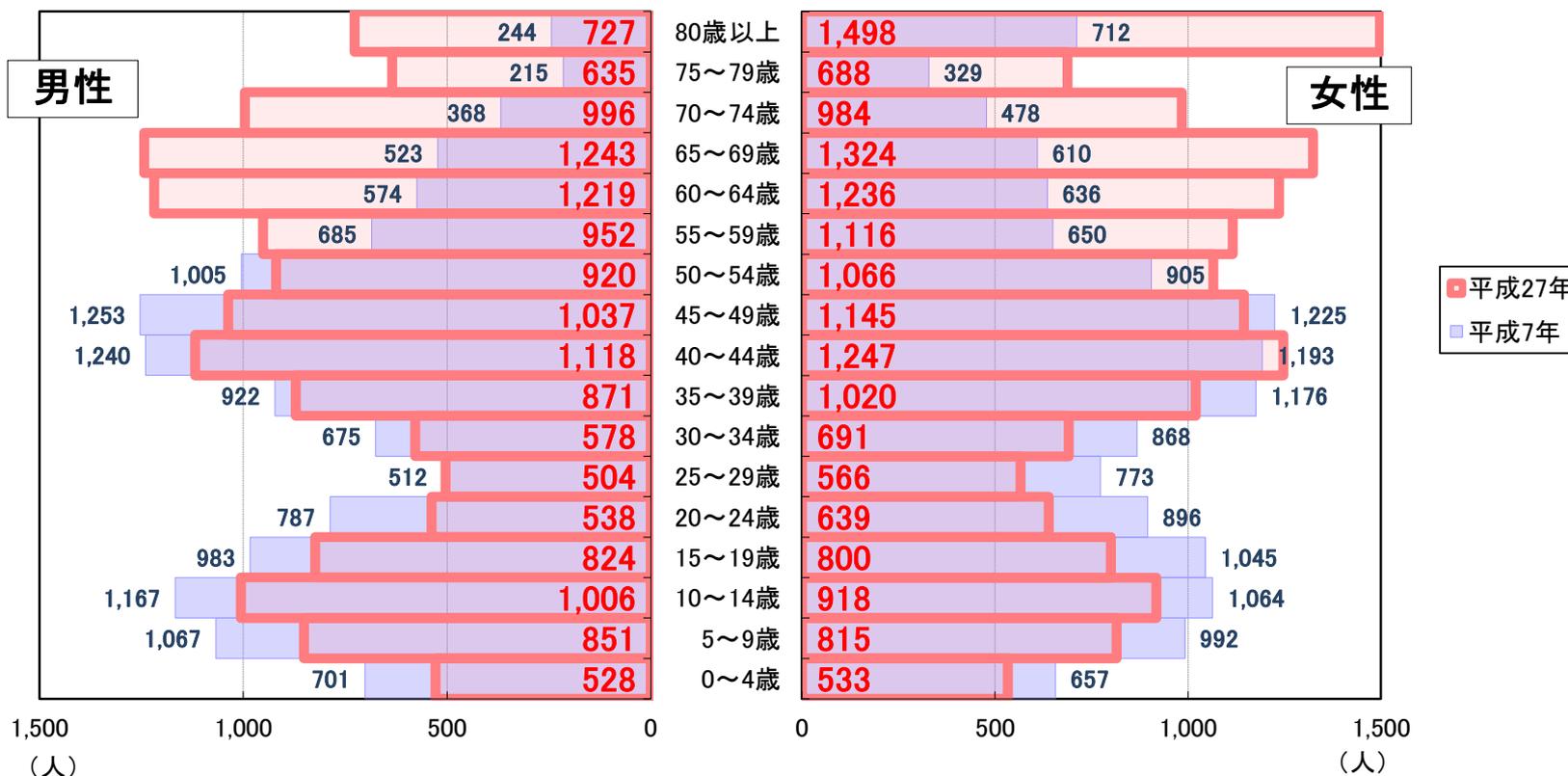


出典：国勢調査（昭和35年～平成27年）、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計結果（平成25年3月推計）（平成32年以降）

■年齢別人口

○ 人口ピラミッドによる年齢階層別比較をみると、年少人口や生産年齢人口のうち、15歳から34歳の人口が減少している。

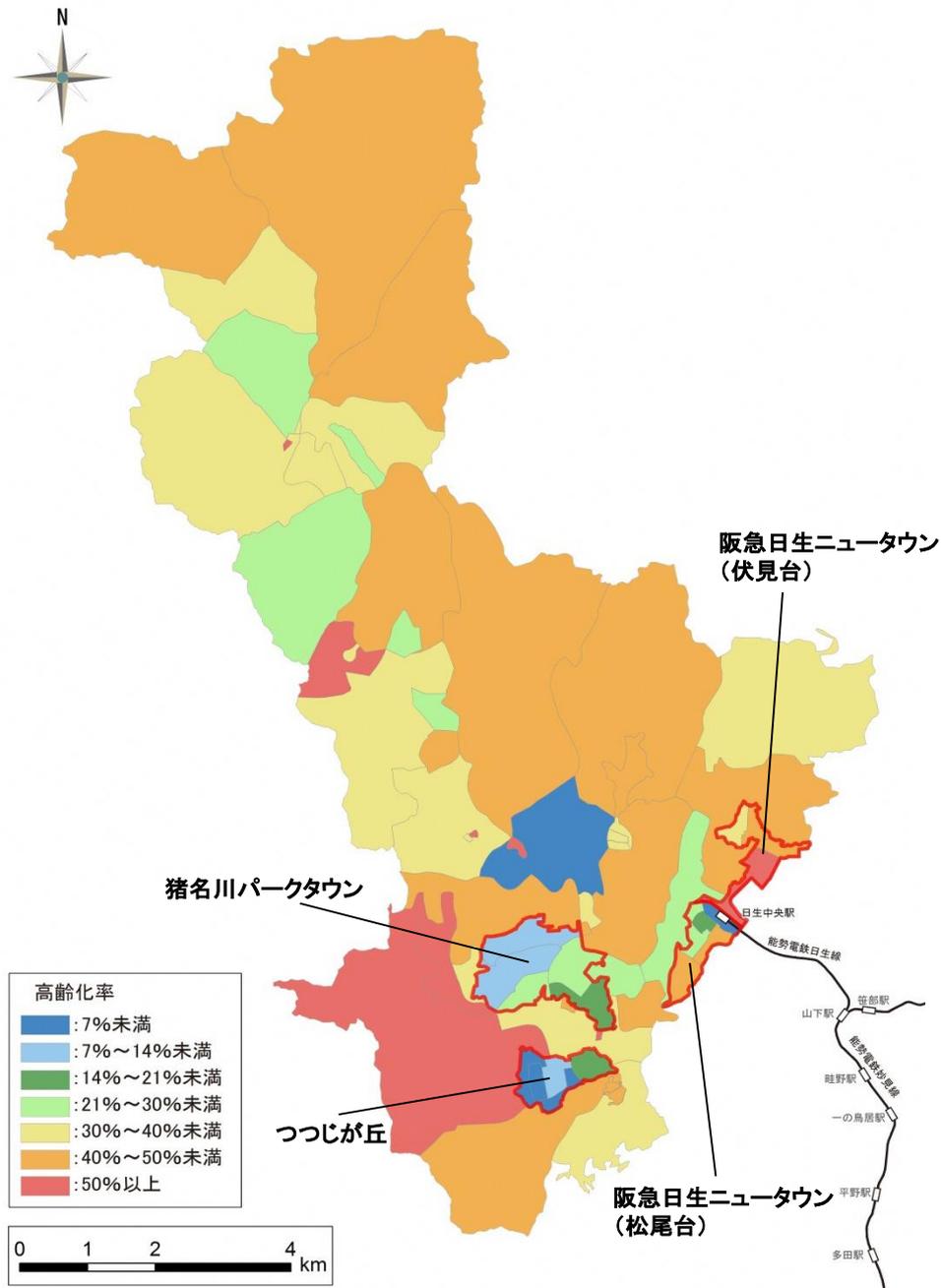
●人口ピラミッドによる年齢階層別比較



※各年10月1日現在
出典：国勢調査（平成7年、平成27年）

■町丁目別に見た高齢化率

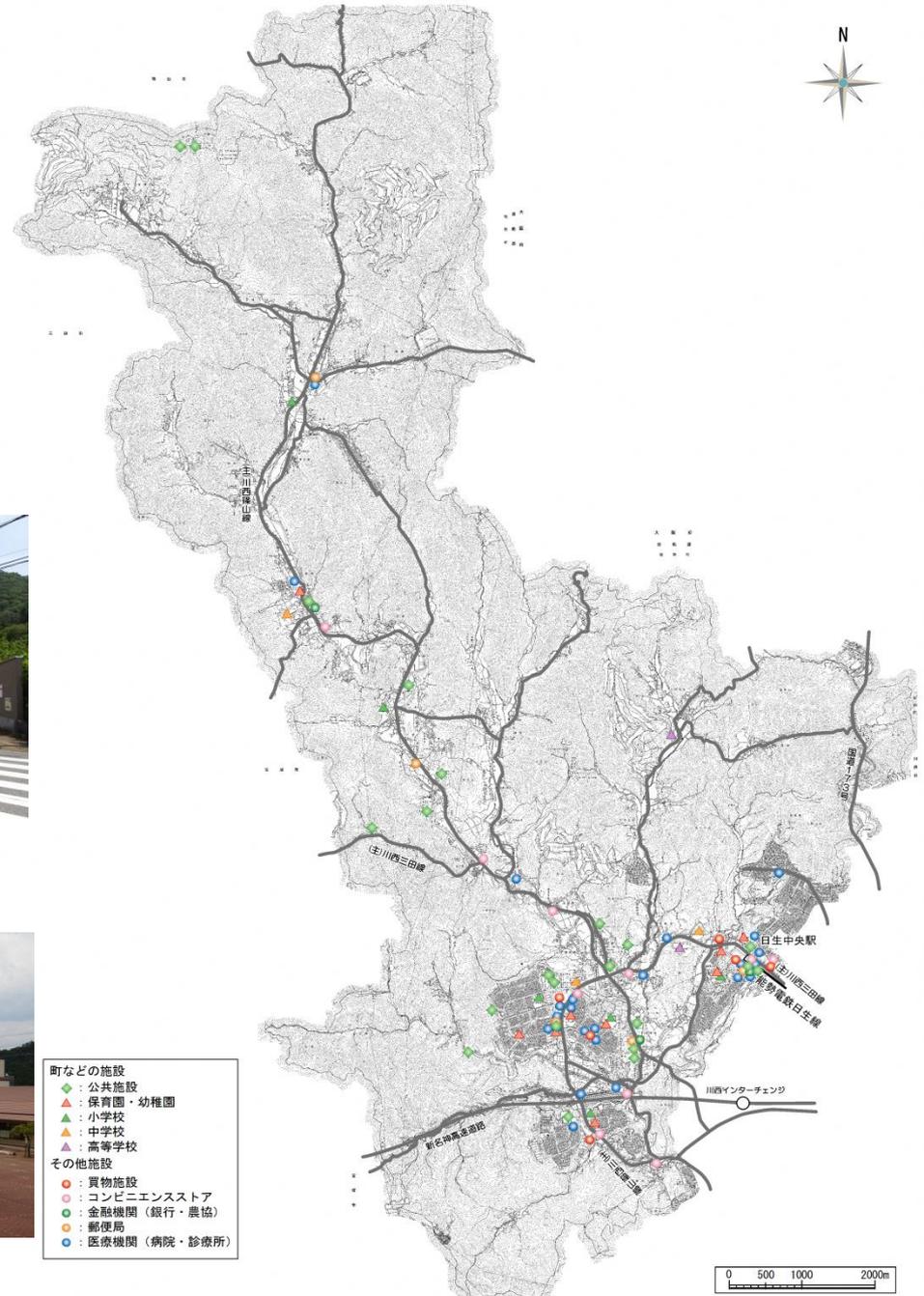
- 北部地域をはじめ、南部地域の阿古谷地区、猪渕・銀山及び高度経済成長期に開発された住宅地（阪急日生ニュータウン）では、高齢化率が高い状況にある。



※平成27年10月1日現在
出典：国勢調査（平成27年）

施設立地状況

○ 公共施設、商業施設、病院、診療所の立地状況を見ると、主に南部地域において集積している。



- 町などの施設
- ◆ : 公共施設
 - ▲ : 保育園・幼稚園
 - ▲ : 小学校
 - ▲ : 中学校
 - ▲ : 高等学校
- その他施設
- : 買物施設
 - : コンビニエンスストア
 - : 金融機関 (銀行・農協)
 - : 郵便局
 - : 医療機関 (病院・診療所)

●猪名川町役場



●総合福祉センター (ゆうあいセンター)



●イオンモール猪名川



●日生中央サピエ



猪名川町におけるまちづくりの状況

■ プロジス猪名川プロジェクト

- 平成30年3月に高槻JCT・IC～神戸JCT間が全線供用した新名神高速道路の川西ICに近い大規模町有地を産業拠点地区と位置付け、企業誘致により産業振興や雇用機会の確保など地域経済の活性化を図ることで、活力ある持続可能なまちづくりの実現をめざしている。
- 物流不動産を所有・運営・開発する業界大手の事業者であるプロジスにより物流施設の集積拠点として、開発が進められている。

● プロジス猪名川プロジェクトの位置



出典：猪名川町資料

● 事業計画概要



開発区域面積	約452,000㎡（約137,000坪）
計画総延床面積	約258,000㎡（約78,000坪）
計画施設	マルチテナント型施設1棟 BTS（特定企業専用物流）型施設4棟
事業期間	2015～2025年度
開発スケジュール（予定）	2017年6月：造成工事開始 2019年11月末：造成工事完了、第1棟開発着手 2021年春～夏：第1棟竣工予定

※ マルチテナント型施設：さまざまな業種に対応した汎用型（複数企業向け）の物流賃貸施設

※ BTS（ビルド・トゥー・スーツ）型施設：特定企業を対象とした物流賃貸施設

出典：猪名川町産業拠点地区企業誘致推進協議会HP

猪名川町におけるまちづくりの状況

■道の駅いながわ機能拡大プロジェクト

- 猪名川町地域創生総合戦略（平成28年3月策定）に掲げる5つの重点プロジェクトの一つである「道の駅いながわ機能拡大プロジェクト」を実行していくための具体的な計画として、平成29年7月に「道の駅いながわ活性化基本計画」を策定し、道の駅いながわを移転・拡大することが決定している。
- 将来構想として、「地域センター型としての道の駅」かつ「ゲートウェイ型としての道の駅」があげられており、公共交通の充実につながる道の駅としてハブ拠点としてのあり方について、検討を進めている。

●道の駅いながわ機能拡大プロジェクトの位置



現況写真（南田原）

●現在の道の駅いながわ



出典：道の駅いながわ機能拡大プロジェクトに関するマーケットサウンディング実施に係る資料（平成30年6月 猪名川町）